

卒業生の挨拶（陳 卓勛）

振り返れば、この4年半の研究生活は、多くの挑戦と学びに満ちた日々でした。新型コロナウイルスの影響で予定が変わり、予想外の困難にも直面しましたが、その中で得た経験は、私にとってかけがえのない宝物です。

まず、絹谷先生には、いつも温かく親切に接していただき、心より感謝申し上げます。先生は、この4年半の間、臨床と研究の両面で学ぶことができる素晴らしい環境を整えてくださいました。そのおかげで、私は多くの知識と技術を習得し、視野を広げることができました。この恵まれた環境で過ごせた時間は、私の人生における大きな財産です。

中嶋先生には、研究計画や論文執筆に至るまで細やかなご指導をいただき、人生で初めて学術論文を発表するという貴重な経験を得ることができました。この経験は、私が研究者としての第一歩を踏み出すきっかけとなりました。

滝先生には、心臓核医学の動物実験において、常にご指導とご支援を賜りました。先生のご助言とサポートがあったおかげで、研究課題にも取り組むことができ、大変勉強になりました。この場を借りて、改めて深く御礼申し上げます。

また、萱野先生には、日本での生活をより充実させるための的確な助言と、生活面での温かいサポートを賜り、大変感謝しております。一番近くで研究の指導にあたってくださった若林先生には、実験技術やデータ解析の基礎を丁寧に教えていただき、研究を進める上で大きな支えとなりました。お二人のご助力がなければ、ここまでの成果を得ることはできなかったと思います。

さらに、小児科の黒田先生には、フローサイトメトリーの技術を丁寧にご指導いただきました。この技術を習得したことで、研究内容をさらに深めることができました。

研究室の仲間たち、特に張雪さんには、3年間にわたり励まし合いながら共に努力を重ねてきたことに深く感謝しています。彼女の存在は、私の研究生活を明るく、楽しいものにしてくれました。

日本での生活は、中国とは異なる環境の中で多くの学びを得る機会となりました。最初は不慣れだった日本の静かでマナーやルールを重んじる生活も、次第に馴染むようになり、今では心から楽しめるようになりました。登山やスキー、キャンプといった新しい趣味も、日本の豊かな自然環境のおかげで充実した時間を過ごすことができました。この経験は、私にとって大切な思い出となりました。

今年、私は次のステージへと進みます。ここでの経験や皆さんとの思い出は、これからの人生における大きな支えとなるでしょう。

最後になりますが、先生方、研究室の仲間たち、そして私を支えてくださったすべての方々に、改めて深く感謝申し上げます。

これからもお互いの道で精一杯頑張り、いつかまた笑顔で再会できる日を楽しみにしております。本当にありがとうございました。

